

(10) 平和を祈る記念像 (土佐公園内)

西区北堀江4丁目

昭和20年3月13日深夜から翌14日未明にかけて、アメリカ空軍B29、247機の空襲で大阪は廃墟と化してしまいました。特に西区はひどく、住宅の80%が焼失しました。その後、6月7日にも空襲がありました。この像は、永遠の平和を求め建立されました。



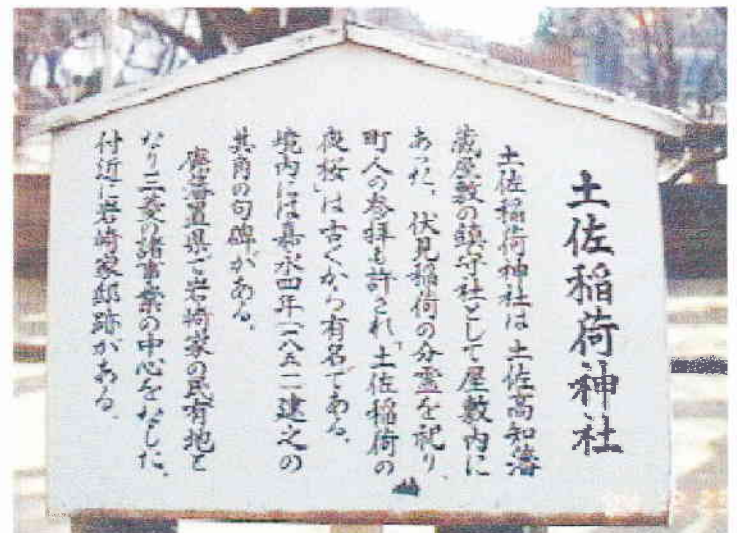
(11) 土佐藩蔵屋敷跡 (土佐稲荷神社)

西区北堀江4丁目

この神社と隣のマンモスアパート(司馬遼太郎氏が以前住んでおられた、)こども文化センターを含め、土佐藩の大坂蔵屋敷でした。この蔵屋敷邸内に鎮守社として享保2年(1717)に稲荷社を祀りました。明治7年、岩崎弥太郎にその所有が移り、桜の樹をたくさん植えたことにより、有数の桜の名所となりました。境内には、八代目の土佐藩主 山内豊敷(とよぶ)寄進の石灯笼、三菱の2代目社長 岩崎彌之助(初代三菱社長 岩崎彌太郎の弟)寄進の青銅狛犬、嘉永4年(1851年)建立の俳人其角の句碑、元総理大臣加藤高明寄進の高灯笼などがあります。土佐国は長宗我部氏が領有していましたが、関ヶ原の戦いで西軍に属し、破れたため遠江の山内一豊が入国し、以後山内氏が16代にわたり、明治維新まで土佐藩24万2千石を治めます。幕末の土佐藩は、幕末四賢侯のうちの一として名高い山内豊信が15代藩主として嘉永元年(1848)に就任します。豊信は人事の刷新を図り吉田東洋を起用し、藩政の改革を行いました。一方、幕政では將軍継嗣問題に関し、一橋慶喜擁立に尽力しましたが、井伊直弼により一橋派が退けられ、安政の大獄により隠居謹慎の身となりました。慌ただしい政局の中で、吉田東洋暗殺後、土佐勤王党の首領 武市半平太が勢力を得ます。京での禁門の変以後、情勢が再度変わり、土佐勤王党弾圧が行われ、豊信改め容堂は、武市以下土佐勤王党員の命をことごとく奪います。しかし情勢が再々度変わり、土佐脱藩の坂本龍馬と参政 後藤象二郎との会談後意気投合し、坂本龍馬率いる亀山社中は土佐海援隊となります。龍馬が起草した「船中八策」が後藤により容堂に伝えられ、容堂はこれに賛同します。そして土佐藩の藩論を「大政奉還」と定め建白書を15代將軍徳川慶喜に提出、それが認められ、ついに徳川幕府から朝廷に政権が移動しました。しかし、武力討幕を主張していた薩摩藩、長州藩は「王政復古の号令」というクーデターに成功し徳川慶喜を政権の座から引きずり下ろします。平和的解決を希望し、それに成功したかに見えた土佐藩でしたが、結局、討幕軍に参加し戊辰の役を迎えたのでした。



大正時代の土佐稲荷神社



(12) 堺事件 土佐藩 11 烈士ゆかりの地 (土佐稲荷神社)

☞ 慶応4年2月。堺にて無法を働くフランス人を殺害した咎により、土佐藩士 箕浦猪之吉以下20名、切腹を命じられました。その20名を誰にするかをこの神社の神前にて「みくじ」をひき、人選しました。その後、その20名は堺の妙国寺に護送され、壮烈なる最期を遂げました。(12人目で中断され実際の切腹者は11名です。)有名な『堺事件』です。



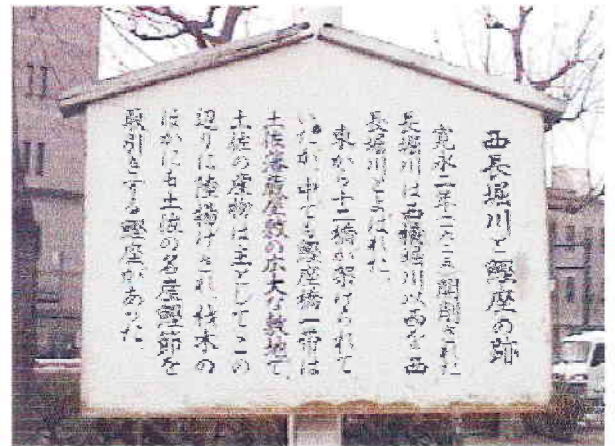
(13) 岩崎家舊邸跡 [三菱発祥の地] 西区北堀江4丁目

☞ 西長堀くすのきコーポ入口の楠のたもとに碑があります。前ページの古写真で神社の右に写っている豪邸がそれです。岩崎弥太郎(1834-1855)は、三菱財閥の創始者で土佐の出身です。土佐藩参政吉田東洋、後藤象二郎の知遇を得て、経済面で活躍し九十九商会を私的経営に変え、明治6年、三菱商会を興しました。



(14) 西長堀と鯉座の跡 大阪市西区北堀江4丁目

☞ このあたりは土佐の名産鯉節を取り引きする鯉座がありました。司馬遼太郎の小説『竜馬がゆく』でたびたび鯉座橋の名が出てきます。



(15) 西区役所前の道標 大阪市西区新町4丁目

☞ 幕末期に建立されたとされています。四方に東西南北を示し、直進と左右への道案内が丁寧に刻まれています。



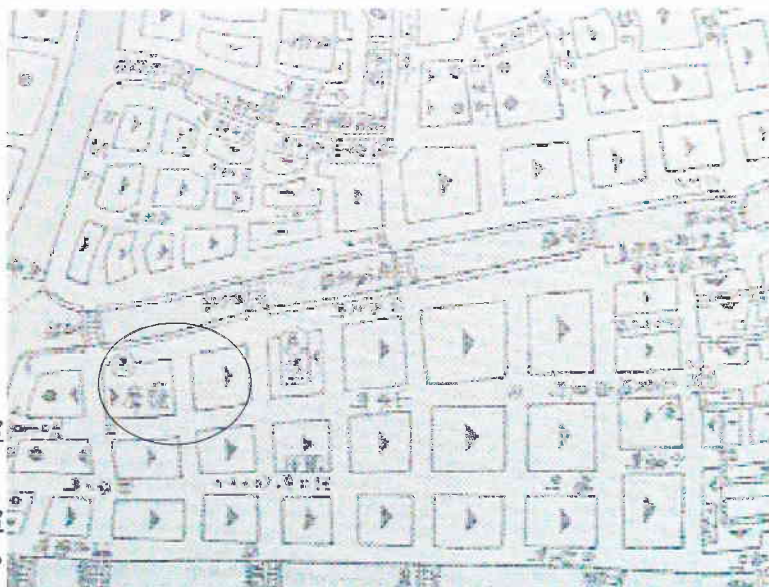
- (16) 鯉座発祥の地 西区新町4丁目9-8
 (17) 鯉節問屋山田屋跡地 (グランドメゾン西長堀)

☞ 平成11年12月、積水ハウス㈱建立の『鯉座発祥の地』の碑がグランドメゾン西長堀のマンション敷地内にあります。石碑には『西長堀（昭和45年埋立）に架かる鯉座橋一帯には土佐藩蔵屋敷の広大な敷地があり右岸のこの辺りには土佐の名産鯉節の仲間取引をする鯉座があった。』と記されています。また、逆の側面に『宝暦2年創業。諸国鯉節問屋山田屋跡地』とも記されています。



- (18) 薩摩藩蔵屋敷（下屋敷）跡 西区新町4丁目12付近

☞ 薩摩藩の蔵屋敷は、上屋敷・中屋敷・下屋敷とありました。そのうちの下屋敷は、立売堀西の町（現在は立売堀5丁目）にあり、ちょうど現在、日生病院の南あたりの位置にあたります。その名残からか町名が一時期、このあたりを島津町と名づけられていました。薩摩藩の藩主である島津氏の姓名が町名になったのでしょうか。薩摩藩は、島津氏が統治する西南きっての雄藩でした。慶長5年（1600）の関ヶ原の合戦に西軍に参戦した島津義弘は、小早川秀秋らの寝返りにより東軍が優勢になった時、前面に滞陣していた井伊直政軍に向かって敵中突破を図り逃れます。島津（薩摩藩）と井伊（彦根藩）の因縁はこの時より始まります。その後、この井伊直政らのとりなしで琉球及び奄美諸島を加えて旧領を安堵されます。（毛利家は112万石から36万石に減封されています。）幕末、四賢侯の一人に数えられている島津斉彬が11代藩主に就きます。斉彬は開明的で反射炉、洋式造船場、溶鉱炉、大小銃砲製造などを手がけました。また下級武士であった西郷吉之助（のちの隆盛。本名 隆永）を抜擢しています。しかし、京への出兵直前急逝し、弟 久光の子 忠義が藩主の座に就きました。実際の実権は藩主の父である久光が握りますが、天下へ号令をかける野望は持っており、斉彬と同じように出兵を試みます。しかし、形だけまねても人物が違ふと西郷吉之助から「じごろ（田舎者）」と評されて激怒します。久光が抜擢した大久保一蔵（のちの利通）と西郷が中心となり幕末の混乱の中で藩の舵取りをします。時には会津藩と同盟を結び長州藩を京から追い払うクーデターを起こしたり、その長州と坂本龍馬、中岡慎太郎の仲介により薩長同盟を結び、ついに明治維新の大業を成し遂げます。明治新政府になってから西郷と大久保が対立します。西南の役で西郷隆盛を将とする薩摩士族の反乱を大久保を中心とした政府軍が鎮圧し西郷は倒れます。大久保は翌年暗殺されます。新政府から再三出仕を招致されながら断り続けた島津久光は、この西南戦争を静かに見ていたといえます。



古地図【○印は薩摩藩蔵屋敷（下屋敷）】



幕末四賢侯のうちの一人 島津 斉彬



島津 久光

(19) 島津公園 (この付近薩摩藩下屋敷跡)

西区立売堀5丁目 日生病院前

☞ (18)でご紹介しましたように、昔このあたりは島津町と呼ばれていました。薩摩堀川が近かったのか薩摩藩下屋敷が近かったのか、薩摩藩主島津氏からこの町名が名づけられてものと思われる。今はここ「島津公園」のみがその名を残しています。



(20) 薩摩堀川跡 西区立売堀4丁目 (薩摩堀公園内)

(21) 薩摩堀公園

☞ 薩摩堀川は、寛永7年(1630)薩摩屋仁兵衛によって2年間かけて開削されました。全長は833メートルしかなく、比較的小規模な川でした。薩摩藩の船が出入りし黒砂糖、しいたけ、薬等を扱う問屋が6軒も並んでいました。薩摩堀川跡の石碑が公園内にあり、その公園も薩摩堀公園といえます。

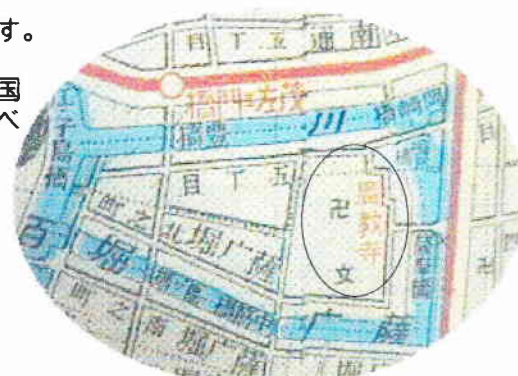


(22) イギリス公使 オールコック宿泊地跡 西区立売堀4

☞ 薩摩堀川は大正13年の地図で確認できます。(21)でご紹介した薩摩堀公園のあたりは、この地図によると廣教寺(現在は豊中に移転)が記されています。パークスが赴任する前の駐日公使はオールコックです。オールコックは、初代駐日総領事として安政6年(1859)6月に来日します。その年の11月に公使に昇任。元治元年(1864)9月、攘夷の不可能を示すため、4か国連合艦隊の下関遠征並びに砲撃を決行したのがオールコックです。しかし、本国イギリスには、オールコックの行動を非難。(微に評語が一転し、正当だと評されます)そして、本国へ召還されてしまいました。文久元年、香港への出張を終え、長崎から船で兵庫、兵庫から陸路で大坂に入ったのが、文久元年(1861)5月9日でした。そして宿泊したのが、ここ廣教寺です。大坂の街を見物に出かけ、「ベニスのような」と記録に残しています。近くにあった堀江の芝居小屋で芝居見物も行っています。そのほか、大坂城、四天王寺にも訪れています。「(大坂は)、兵庫開港を控えたこの大中心地は、外国貿易にとって価値があるにちがいない。」と感想を述べています。



オールコック(Rutherford Aicock)



○印は廣教寺